

平成25年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

1 学校の教育目標	1 自己の個性を伸ばし、意欲的に学び続ける人間の育成	
	2 自主自立の精神を持ち、社会の発展に寄与する人間の育成	
	3 心身ともに健康で、心豊かなたくましい人間の育成	
2 今年度の重点目標	1 キャリア教育の充実	3 危機管理体制の整備
	2 特別支援教育の推進	4 生涯学習講座の運営
3 昨年度の成果と課題	1 定通共通目標の進路決定率は昨年度68.0%と65.0%の目標を達成したが、今年度も継続して、キャリア教育の充実を図って目標を達成する。	
	2 保護者のPTA総会や研修会への出席率など目標を達成できなかった項目に対しては、検証を行い指導や働きかけに努める。	

評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

領域	重点目標	評価項目	自己評価	今年度の成果と課題	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者の意見・要望
学校経営計画	・開かれた学校づくりの推進 ・信頼される学校づくりの推進	・学校評価の実施と活用 ・学校関係者評価の導入と活用 ・教育公務員としての倫理観の涵養	B	・HPの更新が目標の4倍以上の情報発信ができた。 ・体罰根絶、冬道の安全運転等の研修会を実施し、倫理観の涵養に努めた。	・学校、家庭、地域が共通理解を図るために、HPを含めさらなる情報発信に努める。 ・「いじめ防止基本方針」に基づいた適切な対応を行う。	B	・数値目標を達成させることが目的にならないように欲しい。 ・HPのトップページを柔らかくして欲しい。 ・お客様に歓迎の言葉、ねぎらいの言葉をかけて欲しい。
学習指導	・確かな学力の育成 ・確かな学修の保障	・授業評価の実施と活用 ・シラバスの作成と活用 ・面談・添削を通した学習意欲の喚起	B	・生徒の実態に即した学習指導が行えた。 ・公開授業や授業改善研修への参加が多数あった。	・学習意欲喚起のための魅力ある授業実践への取組を行う。 ・授業評価の内容、実施方法の改善を図る。	B	・原石は手をかけないと光らないので、手間暇をかけた指導を望む。 ・単位制の仕組みを何度も1年次の生徒、保護者に教えて欲しい。 ・レポート不提出の生徒に担任の誘いが欲しい。 ・能力差が大きく平均化するのは大変でしょう。
生徒指導	・心に響く生徒指導の実践 ・特別活動の充実	・HR活動や行事を通した協調性の涵養 ・生徒会活動や部活動を通した自主性・責任感の育成	B	・問題行動は減っており、雰囲気も落ち着いている。 ・学校行事や部活動への参加なども良好である。	・新入生が落ち着くまでの指導の改善を図る。 ・身勝手なわずかな生徒をなくすような全体のルール・マナー向上の徹底を図る。	B	・全ての生徒を一つの方向に導くのは無理があり、柔軟な対応を望む。 ・最初の指導が大切だと実感しているので、1年生の指導をしっかりとって欲しい。 ・生徒会等は一部の生徒に限られている。 ・特に卓球部の活動は目を見張ります。
進路指導	・キャリア教育の充実	・進路情報提供と進路ガイダンスの実施 ・健全な職業観・勤労観の育成 ・卒業予定者の進路決定率の引き上げ	B	・キャリア教育の重点的取組で就職内定率も向上した。 ・進学希望者の1・2年次指導が課題である。	・挨拶をする、欠席をしない、時間を守るなどの基礎・基本の一層の徹底を図る。 ・あらゆる場面でキャリア教育を推進する。	B	・就職・進学共に熱心な指導をしている様子がうかがわれる。 ・卒業生と現役生のふれあいの場を設ける。 ・働き方が多様化するなか、一つの職業観や勤労観を掲げるのはあまり意味がない。ブラック企業に就いた時の対処を伝えて欲しい。
健康安全指導	・危機管理体制の整備	・危機管理マニュアルの改訂 ・防災・不審者対策の訓練・研修の実施 ・医療相談機関との連携の強化	B	・危機管理体制の充実に向け、訓練等を積み重ねた。 ・防犯カメラ設置によって、安全安心度は高まった。 ・不審者緊急対応チャートをより充実したものにする。	・帰宅困難な生徒に対して、必要な水、食料の備蓄を行う。 ・防犯カメラ設置に対応した個々の動きが分かる不審者対応チャートの改訂を行う。	B	・危機管理を追及しすぎると「開かれた学校」とは縁遠くなるので、兼ね合いが大切である。 ・対応は早めにして欲しい。 ・帰宅困難者のための食料の備蓄をして欲しい。
家庭・地域との連携	・保護者や地域への情報発信 ・生涯学習講座の充実	・「霞城学園通信」「霞城通信」の発行 ・HPを利用したの情報発信 ・魅力ある講座の編成と生徒の参加促進	B	・HP更新を各課程などで行った結果、時宜を得た情報提供ができた。 ・今後の講座内容や運営に関して職員アンケートをとり検討を図った。	・個人情報に配慮した広報の在り方を検討する。 ・生涯学習サポート会の充実を図り、今後の生涯学習講座の在り方を検討する。	B	・多方面への情報発信や在校生がHPを利用して相談できるようにして欲しい。 ・地元商店街の活動と協力しあうお手伝いをします。 ・HPの情報更新が数多く行われた。 ・講座の共催や連携の企画は非常によい。
特別支援教育	・特別支援教育の推進	・配慮の必要な生徒への指導体制確立 ・個別支援チームの結成 ・国立特別支援教育総合研究所との連携	B	・個別支援を学習支援員と共にに行った結果、配慮が必要な生徒が卒業ができた。 ・特総研の研修会などにより実践力の向上につながった。	・日常の生徒理解を図るために、健康観察の実施について検討する。 ・学習支援員と共に、個別支援体制の充実を図る。	B	・地域の市民団体やNPO団体との連携を検討して欲しい。 ・支援の必要な生徒の増加が見込まれるので、関係団体を巻き込んだ支援が必要である。